

金沢大学附属病院脳神経外科で 脳神経外科を受診した脳腫瘍の患者さんへ

「大脳半球脳腫瘍手術後に生じる感情障害の国際間差異の検討」 に関して

脳腫瘍になると、腫瘍があった部位が担っていた脳の機能が損なわれてしまうため、いろいろな障害が生じることがあります。その機能の一つに、他者の感情の理解と自分の感情の表出の障害があります。これらの機能が障害されると、他の人の気持ちが理解できなかつたり、自分の感情を上手く表現することができなくなるため、手術後の社会生活や生活の質（quality of life; QOL）に大きな影響を及ぼす可能性があります。このことから、近年は脳腫瘍の治療においても、感情の機能に注意が払われるようになってきました。感情には左右大脳半球が特に関与することが分かっており、左右大脳半球の手術後には、異なるタイプの感情の障害が生じます。この能力は私たちが社会生活を送る上で極めて重要な機能であることから、近年は覚醒下手術における機能温存の必要性が認識されるようになってきました。しかし、日本人における結果と欧米人における機能局在は必ずしも一致しない可能性があります。もし機能局在が異なるとすれば、日本人（アジア人）における感情に関わる機能局在を明らかにすることは極めて重要と考えられます。

今回、私たちは神経膠腫（グリオーマ）、髄膜腫、転移性脳腫瘍を含む脳腫瘍の手術後に生じる感情の障害の特徴を調べ、これを既に報告されている欧米人の結果と比較することにしました。この研究より得られた感情の障害についての新たな知見は、脳腫瘍の治療方針を決定するため、また社会復帰の支援（リハビリテーション）を行う上で大変意義のあるものであると考えています。

本研究は、すでに得られたデータを用いて後方視的な検討を行う研究です。なお、この研究は、金沢大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究域長の承認を得て行っているものです。

1. 研究の対象

研究の対象は2013年から2029年6月までの間に金沢大学で脳腫瘍摘出術を施行し、感情識別能力の検査を通常の診療範囲内および医学倫理審査委員会の承認を得て実施した研究（課題番号：1505, 1797, 2593）に基づき実施された方です。この研究に参加したくない方がいらっしゃいましたら、そのことをお申し出ください。その場合、あなたの資料を研究に供することはありません。

2. 研究の目的について

大脳半球脳腫瘍手術後に生じる感情障害の特徴の検討

この研究では通常の保険診療の範囲内、および医学倫理審査委員会の承認を得てすでに行われた研究より得られた情報を用いて、感情の障害の特徴を明らかにします。

3. 研究の方法について

この研究ではすでに本学において実施した感情識別能力の診療記録の記載情報にもとづいて、右大脳半球グリオーマ手術後に生じる感情の障害の特徴を統計学的に検討します。収集したデータと解析結果は学会や論文などに発表される事がありますが、個人情報公表されることは一切ありません。

4. 研究期間

この研究の期間は、金沢大学医学倫理委員会の承認日から2029年6月30日までです。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

- ・年齢，性別
- ・病理，腫瘍の遺伝子情報（IDH-1, 1p19q, MGMT）
- ・MRI画像（T1強調画像，FLAIR，DTI，安静時機能的MRI画像等），病変の領域と範囲
- ・日常生活における感情の障害の有無
- ・手術所見，および覚醒下手術における本課題実施時の陽性所見の位置
- ・術前，術後，術後慢性期の成人版表情認知検査，アジア版reading the mind in the eye testの結果

6. 外部への試料・情報の提供・公表

収集されたデータは学会や論文などに発表されます。

7. 予想される利益と不利益について

この研究は診療記録より後方視的に得られたデータを統計解析する研究であり，この研究に参加してもあなたに直接の利益はありません。また，不利益もありません。しかし，個人情報の流出の可能性が全くないわけではありません。データの取扱いについては，外部に漏れることが無いよう細心の注意を払います。

8. プライバシーの保護について

この研究はすでに得られている情報を用いるため，新たに個人情報を扱うことはありません。なお，診療記録より得た情報については，これまで実施してきたと同様，研究に用いる情報に対応する番号をつけた一覧表を作り，データの調査には個人情報の含まれない対応番号のみを使います。また，これらの情報は鍵のかかる机に保管し，個人情報が流出することがないように，細心の注意を払います。また，この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがありますが，患者個人情報などが公表されることは一切ありません。

9. 研究参加に伴う費用の負担や通院について

この研究に参加することによる費用等の負担はありません。

10. この研究で使用した試料・情報の取り扱いについて

本研究で得られたデータを別の研究に2次利用する場合は，改めてその研究計画を医学倫理審査委員会において審査し，承認を受け，再同意を得た上で実施します。

1 1. 研究組織

研究責任者：金沢大学 脳・脊髄機能制御学 教授 中田 光俊

研究分担者：金沢大学 脳・脊髄機能制御学 講師 木下 雅史

金沢大学 リハビリテーション科学領域 助教 中嶋 理帆

1 2. 本研究に係る資金ならびに利益相反について

この研究は、研究責任者が所属する診療科の研究費で行います。

私はこの試験の実施や報告の際に、金銭的は利益やそれ以外の個人的な利益のために専門的な判断を曲げるようなことは一切致しません。

1 3. 研究への不参加の自由について

あなたの情報が当該研究に用いられることについて、御家族・代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、2029年6月30日までに下記の間い合わせ先までお申出ください。

1 4. 研究計画書など資料の入手について

この研究の研究計画書などの資料が欲しい、またはご覧になりたい場合は、研究に関する窓口にお問い合わせくだされば、対応いたします。

1 5. 研究に関する窓口

この研究の内容について、わからない言葉や、疑問、質問、自分がこの対象の対象になるかなど、更に詳細な情報をお知りになりたい場合は、ご遠慮なくいつでもお尋ねください。

研究機関の名称：金沢大学医薬保健研究域医学系

研究責任者：中田 光俊（金沢大学医薬保健研究域医学系教授）

問合せ窓口：中田 光俊（金沢大学医薬保健研究域医学系教授）

住所：金沢市宝町13-1

電話：Tel: 076-265-2384 Fax: 076-234-4262